



好学愛知  
自律敬愛  
質実剛健

# 鶴丸イ言

本校ホームページ:

## 行事予定

月	日	曜日	行事等	校時	時間別変更等	学食
12	1	月	全校朝会⑦	5分遅	本職授業	○
12	2	火	SL(C) SC来校(保先生13:30~17:30)	午前45分 午後50分		○
12	3	水				○
12	4	木	保健講話(15:30~16:20)		月曜授業	○
12	5	金	令和の日本型学校教育推進支援プログラム研究公開授業(2限) 通番引継会 SL(A)		特別時間割	○
12	6	土				×
12	7	日				×
12	8	月		40分		○
12	9	火	SL(B)			○
12	10	水	学校安全の日			○
12	11	木				○
12	12	金	1・2年クラスマッチ 通番引継会		火曜授業	○
12	13	土	3年共通テストプレ①			×
12	14	日	3年共通テストプレ①			×
12	15	月	学年朝会⑧	5分遅		○
12	16	火	クラスマッチ予備日 SL(C)			○
12	17	水				○
12	18	木	SC来校(大島先生13:30~16:30)	45分		○
12	19	金	通番引継会 SL(A)			○
12	20	土	北予備ファイナル(鹿児島大学)			×
12	21	日	北予備ファイナル(鹿児島大学)			×
12	22	月	SC来校(保先生13:30~17:30)			○
12	23	火	SL(B)		金曜授業	○
12	24	水	大掃除 英語テスト激励会 通番引継会	40分 6限		○
12	25	木	冬季悠学講座			○
12	26	金	冬季悠学講座			○
12	27	土	冬季悠学講座			×
12	28	日	冬季悠学講座			×
12	29	月	冬季悠学講座			×
12	30	火	冬季悠学講座			×
12	31	水	冬季悠学講座			×

↑発行時の予定です。  
変更にご注意してください。

## 私の心の中に咲いたヒマワリ

国語科 中溝啓文

幸福とは何か。この問いは、高校生にとって大学合格や夢の実現といった未来の目標として捉えられがちだ。しかし、幸福は本当に、手の届かない遠い場所や、壮大な成功の先にのみ存在するのだろうか。

この問いへの答えを探る鍵は、日々のささやかな行為の中にある。今年度、私の心に深く刻まれたのは、ある生徒の姿だった。夏が近づく早朝、テニスコート横の花壇で、一人の生徒が黙々と植物に水やりをしていたのだ。誰に頼まれたわけでもなく、誰かの評価を気にするでもない。彼に理由を尋ねると、「ただヒマワリを育てたいと思った」というシンプルな答えだった。彼は、ひたすらに、自分が植えたヒマワリが育つことに心を注いでいた。その姿は、どこか満ち足りているように見えた。

やがて夏本番、彼のヒマワリはまぶしいほどの黄色い花を咲かせ、見た人々に確かな喜びをもたらした。この出来事をきっかけに、私は幸福の本質について考えた。もしかしたら、幸福は大きな達成感の先にあるのではなく、「今、目の前にあることに心を込めること」の中に隠されているのではないだろうか。

『幸福論』の著者であるフランスの哲学者アランは、「幸福は、それを得ようとする者にとつては、たちまち手に入るものである」と述べている。彼は、幸福を「結果」ではなく、「意志」や「練習」によってつかみ取るものだとして定義した。これは、幸福が外的な条件を待つものではなく、自らの心と体の使い方によって内側から作り出すものだという、極めて実践的な教えである。

アランによれば、人間は放っておくと「不機嫌」になりがちで、不満を抱きやすい。しかし、不機嫌は幸福を遠ざける行為に他ならない。朝、不機嫌に一日を始めるのと、「ヒマワリの背丈はどれだけ伸びただろう」と機嫌良く始めるのでは、一日の質は全く異なる。アランは、「幸福は、微笑むことである」とまで言い、行為が感情を先導すると説く。

気分が落ち込んでいても、意識的に笑顔を作ることで心が軽くなるのは、この教えに通じる。ヒマワリの生徒が黙々と水やりをしていた姿は、まさにアランの言う「意志」と「行動」の表れだった。彼は、行為のプロセス自体を楽しんでいたのだ。

私たちはつい、「もし〇〇だったら幸せなのに」という「条件付きの幸福」を求めてしまいが、アランはこれに警鐘を鳴らす。常に何かを待つ姿勢では、たとえそれが手に入っても、すぐに別の「〇〇」を求め、永遠に満たされないサイクルに陥る可能性があるからだ。

むしろ、幸福は「今、ここ」にあるものだとアランは語る。朝、目が覚めて太陽の光を感じる。友人と笑い合えること。これらの何気ない瞬間に意識を向けることこそが、幸福への第一歩なのだ。アランは、「幸福は、努力なしに得られるものではない」とも言う。それは、日々の生活の中で意識的に「機嫌よくいきなり」努力であり、目の前の物事に真摯に向き合う努力のことである。

彼のヒマワリは、まさにそのことを教えてくれた。彼は自らの意志で行動を起こし、そのプロセス自体に喜びと充実感を見出していた。そして、その「幸福な行為」は、周囲の人々にも温かい感情を波及させた。幸福とは、手の届かない理想郷ではない。それは、私たち一人ひとりの心の中に宿る、

小さな「種」のようなものだ。その種に、感謝の気持ちという水をやり、前向きな行動という光を当てることで、やがて美しい花を咲かせるだろう。あの夏のヒマワリが教えてくれたように、幸福は、誰かが与えてくれるものではなく、自らの手で耕し、育むものなのだ。そして、そのプロセス自体が、すでに幸福なのである。



## 桜島ロードレース大会

11月5日(水)、実力検査中の3年生を除き、桜島ロードレース大会がありました。

当日は曇り空で肌寒い朝でしたが、生徒たちは桜島フェリーに乗り込み、大会への意気込みと、非日常を味わう高揚感で、大いに盛り上がっていました。

開会式では、「多くの方々のご協力によって大会が無事に開催できることに感謝し、全力で走り抜こう」という黒木校長の激励の言葉がありました。

天候も回復し、生徒たちは日頃の練習の成果を発揮するべく、絶景のランニングコースをそれぞれのペースで駆け抜けました。自分なりの目標を立て、最後まで全力で取り組む姿は、とても印象的でした。

大会終了後は、桜島の景色を楽しんだり、フェリーのなかで仲間との時間を満喫したりと、思い思いのひとときを過ごしていました。努力の成果を発揮するだけでなく、達成感や仲間との絆を深める貴重な機会となったことと思います。

## 大学出前講義

10月31日(金)、1・2年生を対象に大学出前講義がありました。生徒は希望調査をもとに、全16の講座の中から二つを受講しました。講義の最中には、熱心にメモをとったり、自分なりにパソコンでまとめたりする姿も見られました。

また、感想文の中には「遠方の大学から鹿児島まで講義に来てくださり、ありがたかった。貴重な体験が出来た。」「進路選択や今後の人生に役立てたい。」といった声もありました。専門的な研究に触れたことで、大学での学びへの関心が高まったり、新たな好奇心が刺激されたりしたのではないのでしょうか。

## 集団読書

11月10日(月)、1・2年生で砥上裕将『7.5グラムの奇跡』(講談社文庫)を題材にした集団読書が行われました。感想文の朗読を放送部員が一斉放送で行った後、各クラスでテーマを決めて討議しました。



## 〇読書感想文より

題名「心をつなぐ小さな奇跡」  
『7.5グラムの奇跡』は、新人視能訓練士・野宮恭一が、北見眼科医院でさまざまな患者と向き合いながら成長していく姿を描いた、心温まる連作短編集です。この作品では、人の心の機微を丁寧に描いており、読後には静かな感動が残りました。

主人公の野宮は国家試験には合格したものの、なかなか就職先が見つからず、不安を抱えたまま日々を過ごしています。そんな中、偶然受けた北見眼科医院の面接で院長に拾われ、働くこととなります。最初は失敗ばかりで自信を失いそうになる野宮ですが、凄腕の視能訓練士・広瀬真織など個性豊かな仲間たちと関わりながら、少しずつ成長していきます。特に印象に残ったのは、野宮が患者の「目」だけでなく「心」とも向き合うようになる過程です。患者の背景や思いに寄り添うことで、本当の意味で「一人を支える仕事」とは何かに気づいていく姿に胸を打たれました。

この作品は、単なる医療ドラマではありません。登場する患者一人ひとりに人生があり、悩みがあり、そして希望があります。例えば、視力を失いかけた患者が再び前を向くきっかけをつかむ話や、野宮自身が患者との関わりを通して自分の弱さと向き合う場面など、どの章にも温かなメッセージが込められています。「目」を通して「心」を見つめ直すというテーマがとても印象的で、読むほどに「見える」ということの意味を考えさせられました。読み終えたとき、私は人と関わる大切さを改めて感じました。どんなに小さなきっかけでも、人の優しさや努力は誰かの力になります。野宮の成長は、読者にも「自分も誰かの支えになれるかもしれない」という勇気を与えてくれます。『7.5グラムの奇跡』というタイトルの通り、目の重さほどの小さな奇跡が、人の心を動かす力になる、そんな優しい希望を感じられる作品でした。

## 〇集団読書報告書より

・朝読書の時間が無くなったり、単元テストに向けて毎日勉強があったりと、本を読む機会を確保することが難しくなっている中で、全員が本を通じて問題に対してよく考え話し合い、読書体験を深めることができただけで有意義な時間だった。  
・皆が討議の柱について深く考えていた。様々な意見がグループ内で飛び交っており活発だと思った。今回の集団読書は「見えること」の「ありがたみ」「働くこと」について理解を深めるいい機会になったと思う。